

岐阜県教育委員会 様

岐阜県立多治見工業高等学校長

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 岐阜県立多治見工業高等学校 学校運営協議会 (第1回)

2 開催日時 令和4年6月20日(月) 13:30~15:30

3 開催場所 多治見工業高等学校 会議室

4 参加者

会長	鈴木亜紀子	市青年会議所理事長
副会長	樋口 正和	同窓会役員
委員	加藤 亨	明和工業株式会社管理部長
	山本 博子	Mamas' Cafe
	松村 敦子	養正公民館館長
	齋藤 哲弥	地域代表
	倉地 晴幸	前育友会長 (欠席)
	市川みづほ	育友会副会長

学校側	中田 卓生	校長
	松岡 千年	教頭
	永瀬 雅彦	事務長
	青山 知喜	教務主任
	加藤 龍輔	生徒指導主事
	小池 勉	進路指導主事
	和田 正行	工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 学校運営について(各分掌より説明)

①教務部 今年度の方針と重点について 他

意見1:健康チェックアプリや、遅刻欠席連絡のオンライン化などはいつから導入されたのか。
当たり前のように説明されたが、さすが工業高校だと感心した。

→昨年度より導入。健康チェックアプリはリーバーを利用している。もともと土岐市の教育委員会が導入していたとのことで、参考にした。遅刻欠席連絡はMicrosoft Forms を利用してい

る。教務室には常に集計したデータが表示されており、毎朝各担任がチェックすることになっている。

②生徒指導 指導の目標、重点項目について 他

意見1：子供たちのメンタルヘルスについて。SOSの出し方教育とはどのようなものか。また、SOSを受ける側の対応についての教育などはどうなっているか。

→今年度は6月22日に本校SC（スクールカウンセラー）からの講話を実施予定である。困ったときは、遠慮無く助けを求めてよいということ。併せてSOSを受ける側の対応（友達からSOSを受け取った場合は、先生や保護者に必ずつなげる、など）も話す予定。さらには、友人にもSOSを伝えることができない生徒のために、毎月心のアンケートも実施している。今年度は、保健室が多くのSOSを受ける場になっている状況もある。

意見2：子供の貧困について。制服を買えない生徒、生理用品を買えない生徒などはいるか。
→制服を買えない生徒は、今のところいない。制服は譲り受けを認めており、奨学金の紹介なども行っている。

意見3：交通安全について。年度初めに交通安全講話を実施したことは大変よい。

③進路指導 近年の進路状況について 他

意見1：地元企業への就職を大切にしつつも、他の地区へ進出し、広い視野で進路を考えたいという生徒に対応する準備も整えておくとよい。

→意見のとおり、地元から人材を流出させたくない思いはあるが、企業側も「それは企業側が努力することであり、学校にそれ（地元就職）を求めすぎてはいけない」とも考えているようだ。現在、生徒たちは行う仕事の内容で就職場所を選んでいる。今年度の中学3年生は、生徒数が少ないと聞いている。資格が多く取れるということは、中学生が本校を選ぶ大きなポイントだと思うので、是非ともPRをしていきたい。

④工業部 工業部の取組について

意見1：学校行事について。「昨年度までにコロナ禍によって減ってしまった行事を今年度は戻していきたい」という方向性はよい。行事が減り、生徒たちの自己有用感を感じる機会も減ってしまっているため、出前授業やオープンキャンパスなどの行事を利用して、地域の小中学生に、「あの学校へ行きたい」と言ってもらえるような行事の企画・運営を推進してほしい。

意見2：工業高校ということで、新しい機械を扱う場面もあると推察するが、どこにどのような危険があるかを常に考えられる生徒を育ててほしい。

⑤その他の事項について

意見1：設備の古さについて。予算もあるので難しいとは思いますが、最先端技術が学べるのが工業高校には大切であるので、それらをどう取り入れるかが今後の課題である。インターシップなどで、企業の最先端技術に触れさせるなどを考えてみてはどうか。

意見2：教職員の働き方改革について。

→全職員との面談を5月までに実施した。その他、相談窓口の案内や疲労度についてのアンケートなどを実施して働き過ぎの防止に努めている。しかし、現在職員の欠員がある状況もあり、一生懸命取り組む職員が頑張りすぎないように、周囲の気づきや助け合う雰囲気作りが大切だと思われる。

(2) 令和4年度教育指導の重点及び学校経営計画について

- 意見1：達成度の判断基準に、生徒による授業評価が含まれていることは評価に値する。
日ごろから教職員と生徒の良好な人間関係が構築されていないと、教職員に対する評価はうまくいかない。10年以上この学校のすがたを見ているが、近年の生徒は生活態度が非常によく、それが円滑な学校運営の基となっているのではないか。
- 意見2：基本的な生活習慣を身に付けさせる指導について、「最近では遅刻が少なくなっているが」との説明があったが、先ほど生徒指導部からは「遅刻が多い」との説明を受けた。矛盾していないか。
→近年まで遅刻が減少していたが、昨年はコロナ感染予防のための臨時休業・休校等で生活習慣が乱れ、一時的に遅刻が増加した。今年度は再び減少している。
- 意見3：地元との連携で「多工ボーイズカフェ」という催しものを共催している。多治見工業で作った皿とお菓子を提供する試みは、工業高校とは関係がなさそうに見えるが、コミュニケーションを身に付けることに役立っている。今後も継続してほしい。
- 意見4：生徒が落ち着いている。専門性を生かし、コンピュータも利活用して効果的な授業が展開されている。さらに入学者受け入れの面（志願者の増加）を目指したPRに注力してほしい。

6 会議のまとめ

今年度の第14回学校運営協議会は、対面で予定どおり実施することができた。また、昨年度策定したスクール・ポリシーに即した「令和4年度教育指導の重点及び学校経営計画」について説明を行い、協議の上で全委員より承認が得られた。

会議後、3年生セラミック科とデザイン科の実習を見学した。セラミック科の実習では、3Dプリンターを利用した製品開発、デザイン科の実習ではフォトショップを利用したポスター制作の課題研究を見学し、従来の作陶や手書きのデザインとは違った本校の学習を紹介することができた。

委員の皆様が、本校の教育や生徒の実態をよく観察しており、実態に即した意見や提案が多く得られた。特に地域との連携を求める声が多く、今まで以上に、工業高校として地域に根差した活動の必要性を再認識した。